

豊田中央クラブ (中学軟式野球)



2023年

クラブ紹介



[議題のページに戻る](#)

チームの歴史

2020年

3月に一般社団法人、梅坪・
浄水スポーツクラブの野球教
室として1期生7名でスター
ト。

2021年

2期生17名が加入したと同
時に豊田市軟式野球連盟に登
録を申請、「豊田中央クラ
ブ」として4月からの大会に
出場



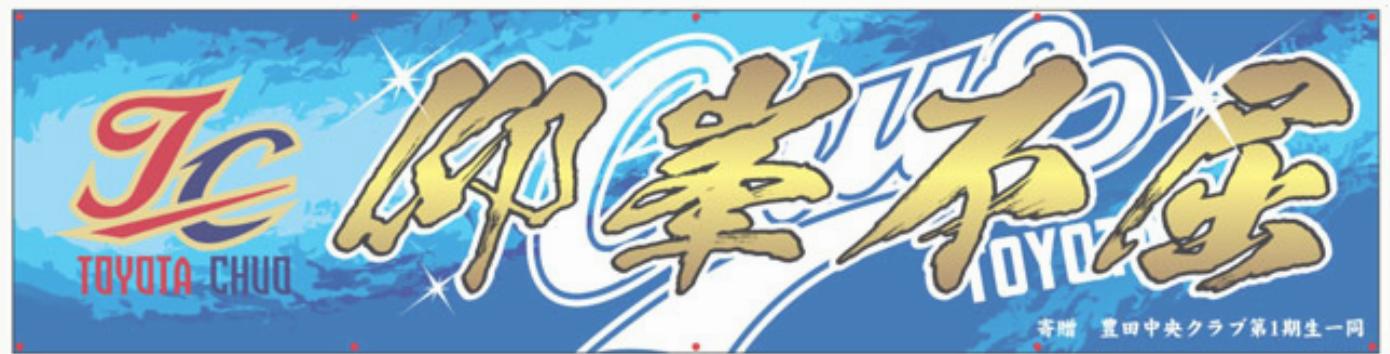
2022年

この年初めての選考会を開催
し3期生が新たに18名加
入。1期生が全日本少年野球
大会予選で初優勝。初の県大
会に出場。

現在



チーム理念・目的・目標



チームスローガン…ぎょうほうふくつ
(目標を見据え、折れない心で立ち向かう)

理念

一般社団法人梅坪・浄水スポーツクラブと提携し、子どもの成長を中心に据え、指導者や保護者、地域の誰もが互いに尊重し参画することができ、スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造、野球を通じて現在や将来に明るい希望を持ちながら幸せな人生を送ることを理念とする。

目的

こどもが野球を通してジェネリックスキル（コミュニケーション能力や論理的思考力、リーダーシップ・チームワーク力）、スポーツマンシップを身につけ、生涯にわたって自立・自走を実現できる人を育てるため、また関わる誰もが互いに共育し、成長するためにチームの活動を行う。

チーム目標 県大会初戦突破

議題のページに戻る

スポーツマンシップ

Sportsmanship

Good Game を実現しようとする心構え

Good Gameを実現する条件とは

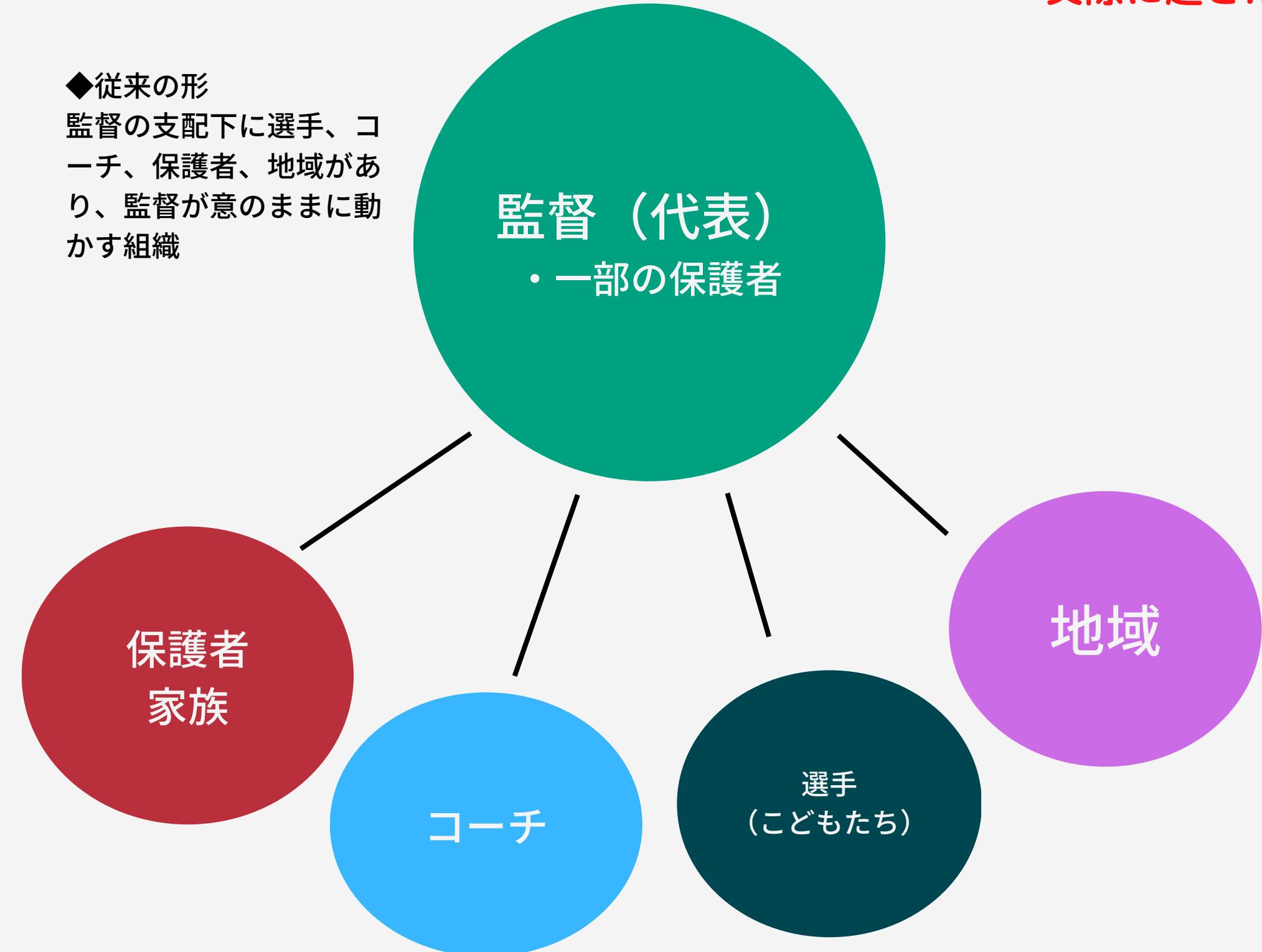
- | | |
|-----------|------------------------------------|
| Respect | ：プレーヤー（相手・仲間）、ルール、審判に対する 尊重 |
| Challenge | ：困難を恐れず、責任を持って決断し、行動する 勇気 |
| Enjoy | ：勝利をめざして最後まで全力を尽くして愉しむ 覚悟 |

こんな形でいいの？

実際に起きた事例を考える

◆従来の形

監督の支配下に選手、コーチ、保護者、地域があり、監督が意のままに動かす組織



1. 独裁や暴走

- ・監督など一部の人の「独裁」や一部の保護者の「暴走」がおきてしまった。
- ・3年生の親が最も偉くて、下級生の親はその言うことを聞かなければならぬという不文律が存在
- ・入団者や入団家族のミスマッチ（聞いていた話と違う）

2. それぞれの子どもや家庭の温度差

- ・野球の結果で判断、子どもの成長にフォーカスできないので意識の濃淡を解消できない。
「甲子園や高校野球というワードで子供たちを指導」

3. 大人（保護者、指導者）も成長、そして楽しむためとしないと、

- ・持続可能なものにならない・所属満足度が上がらない

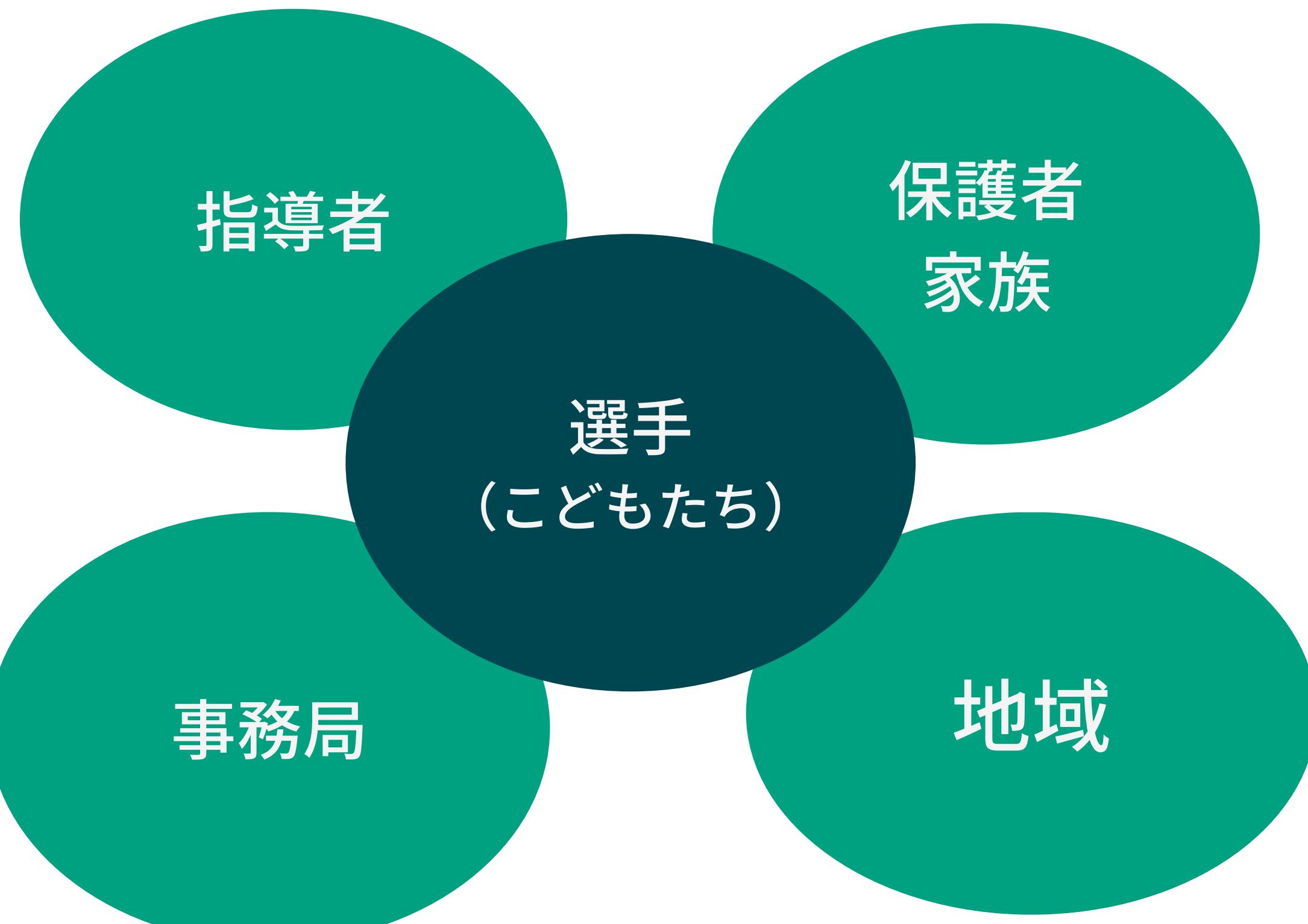
- みんなのWell-Being創り出す
- 勝ち負けだけでないチームの「価値」を創り出す

[議題のページに戻る](#)

プレイヤーセンタード

現代型組織のイメージ

選手を真ん中に置いて考える



指導者

保護者
家族

選手
(こどもたち)

事務局

地域

”プレイヤー・センタード”とは
中心となる選手はもちろん、選手を取り巻く親や指導者、大会運営者や観客なども相互に成長していくことを目指しチームに関わる人々の所属満足度を高めていく考え方。

[議題のページに戻る](#)



豊田中央クラブ ステークホルダーコード

(チームに関わるすべての人が共有する指針)

- (1) コーチコード
- (2) プレーヤーコード
- (3) 保護者コード
- (4) 管理者（事務局）コード
- (5) アンパイア（審判）コード



[議題のページに戻る](#)

コーチ（指導者）コード

チームに関わる「すべての人」が共有する指針

1. 発達期では楽しいを最優先とし、基本スキルを向上させポジションの専門化を避ける
2. 指導者が、スポーツマンシップを正しく理解し、実践・指導できるように貢献する。プレーヤーがチャレンジしたことを大いに評価する。
3. 日常的にコーチとしての学びを怠らない。特に野球のスキル以外（発育発達、心理学、救急措置、運動生理学、教育学等）は重要視すること。学ぶことをやめた時、教えることをやめなければいけない。
4. 誰一人取り残さないよう、一人ひとりに寄り添って話を聴き、適切な対応をとる。
5. プレーヤーが自立、自走できるよう、練習のデザインを常に考える
6. プレーヤーに危険が迫った場合、また他人を傷つける言動、行動があった場合にはすべてを止めて即時に指摘・指導する。

豊田中央クラブのプレーヤーコード

チームに関わる「すべての人」が共有する指針

1. すべての活動において自分自身の成長を促すことを第一とする。仲間や周りの人たちと喜びを分かち合えるようプレーする。
2. 正しい競技規則に従ってプレーする。
3. アンパイア（審判）の決定に対して文句を言わない（伝えるなら手順を踏む）。
4. 自分自身の感情をコントロールする。
5. 自分のことは自分です。自分たち（チーム）のことは仲間と協力し、自分たちです。
6. チームメイトおよび相手の良いプレーを認め、ほめる。
7. コーチ、チームメイト、保護者、関係者そして相手や連盟、審判など周りの人を尊重し（スポーツマンシップの実践）協力・協働する。



豊田中央クラブの保護者コード

チームに関わる「すべての人」が共有する指針

1. プレーヤーが成長するための支えが保護者であり、時には指導、支援、伴走をしながら、保護者自身も成長することを常に考えること（共育）。
2. 全ての人に対して温厚な立ち居振る舞いをし、チームが上手に回るよう他者の尊重をする。
3. プレーヤー、コーチ、他の保護者、相手チームおよびアンパイアに高圧的な態度をしない。
4. 子どもの父親（母親）は、あなた一人である。家庭では、唯一無二の愛情を注ぐこと。
5. 対戦相手に敬意を払い、良いプレーに対しては認め、ほめる。ミスを誘う・喜ぶ言葉を使わない。なくして試合は成り立たないのであるから。
6. 暴力・暴言・威圧・人権侵害の行使を非難する。
7. 子どもには子どもの言い分がある。子どもの話を最後までしっかり聴いてあげる。それに対するジャッジメントは子どもの理論のみが正解とは限らない。
8. プレーヤー以外の家族、きょうだいの幸せも考え、野球がすべてではないことを認識する。



1. すべてのプレーヤーに参加のための機会を平等につくり出す。
2. すべてのステークホルダーが円滑に回るよう配慮を怠らない。
3. 用具や施設、環境がプレーヤーのニーズや特性をよく考えたものであるようにする。
4. プレーヤーの成熟度に合わせて、活動環境、時間、強度を変える。
5. 理念、目的、目標や他の行動規範 コード を配布し、それらがよく知られるようにする。
6. チームに関わる全ての人達は、フェアプレーに対して同様の責任を持っていることを知らせる。
7. コーチおよびアンパイア、スコアラーなどを育成・訓練するための講習会を準備する。
8. チーム外の関係者にチームのことを知ってもらうよう、活動の明確化を図る。